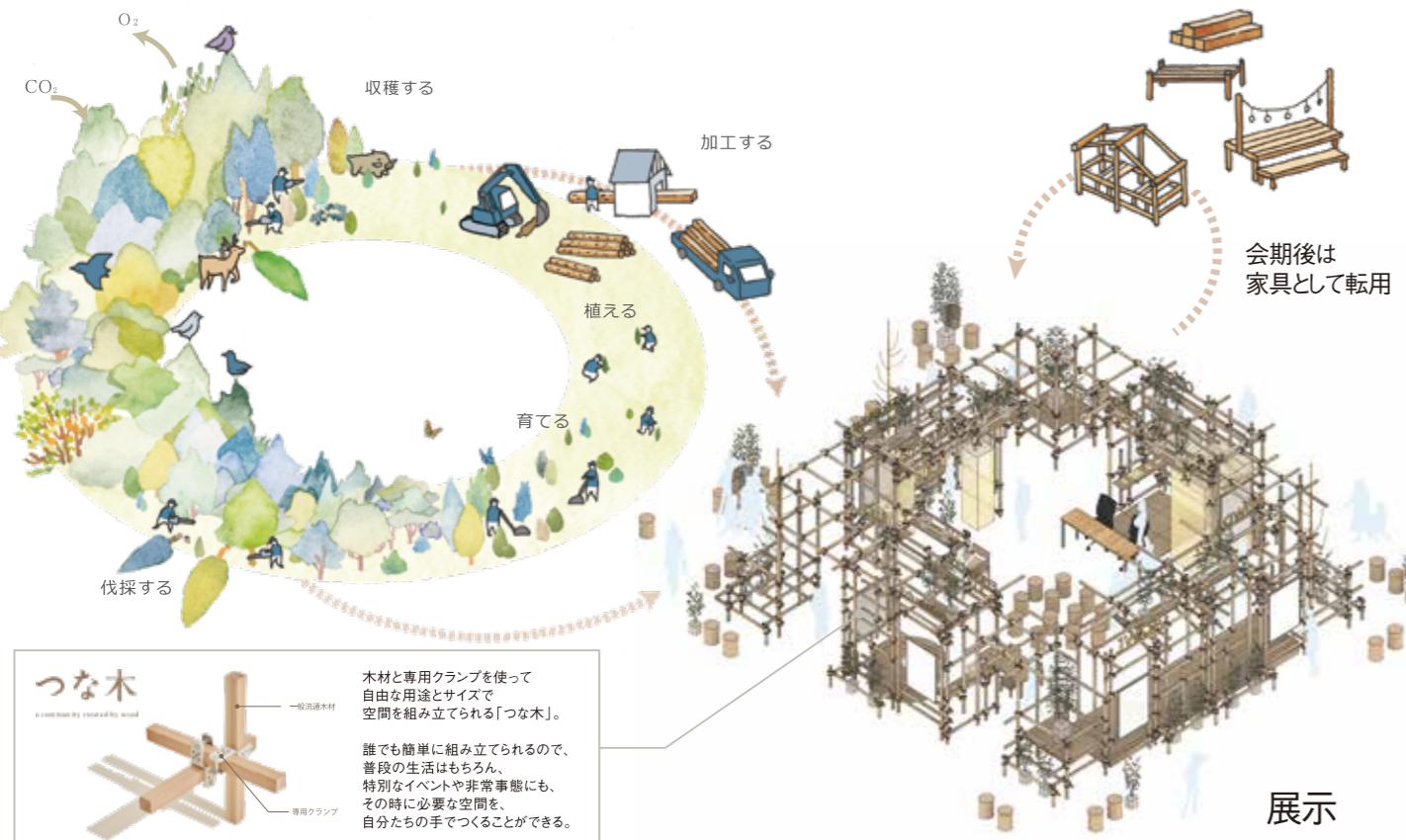


Circular Mountain

森の循環／森と街の循環／展示の循環

サーキュラーデザインを実現する木質展示空間

- ①日本各地の地域木材を使用。
- ②レンタル製品を基本とし、ゴミの排出を抑えた展示。
- ③展示後は公共施設等の家具として転用。



雄花が少なく、ほとんど花粉を出さない品種研究から生まれた少花粉スギの苗木の植栽

表面を磨き仕上げにし、手触りもよいスギ・ヒノキの丸太スツール

吉野林業の伝統と技を活かした、シンボルとしての磨き丸太(ヒノキ、檜)

ハイレゾ自然音源と植物の融合により、空間に快適性をもたらすプランター一体型の音響機器

協力団体・企業

空間デザイン／株式会社日建設計 Nikken Wood Lab 大庭拓也氏

つな木／株式会社日建設計 Nikken Wood Lab 三進金属工業株式会社

少花粉スギ／東京都産業労働局農林水産部森林課 公益財団法人 東京都農林水産振興財団 東京都農林総合研究センター

丸太スツール・磨き丸太／森庄銘木産業株式会社

音響機器(KooNEプランター)／株式会社内田洋行 株式会社ATS

設計・施工／西尾レントオール株式会社

WOOD DESIGN EXPERIENCE

～木を使って、暮らしと街と社会を良くする2日間@東京～

日時: 2024年6月14日(金) 10:00 ~ 20:00

15日(土) 10:00 ~ 18:00

場所: 丸ビル1階 マルキューブ

主催: 一般社団法人日本ウッドデザイン協会
(林野庁補助事業)



開催の趣旨

日本は国土面積の約7割が森林である森林大国。戦後、人の手で植林された人工林の約7割が針葉樹であるスギやヒノキです。現在、こうした森林が樹齢が高くなり、本格的な伐採・利用期を迎えてます。いま、日本の人工林は「伐って・使って・植えて・育てる」という森林循環のサイクルを回し、健全な森林を維持することが重要です。

一方、スギ花粉症は国民の約4割が罹患(りかん)しているとも言われ、暮らしや経済にも大きな影響を及ぼしています。スギの人工林等は花粉の発生源であることから、今後、花粉の少ないスギ苗木への植替え等を行うことで花粉症を減らしていくことができると言われています。

こうした背景から、スギやヒノキ材を含めた木材の利用を進め、森林資源の豊かな活用と持続可能な未来の実現を目指すイベント「WOOD DESIGN EXPERIENCE～木を使って、暮らしと街と社会を良くする2日間～」を開催いたします。

